

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 平成30年11月20日(火)
午後3時02分から午後3時51分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長) 櫻井伸賢、(副委員長) 榊谷規子
(委員) 大野慎治、塚本秋雄、相原俊一、須藤智子、梅村均
- 5 事務局出席 議会事務局長 隅田昌輝、同主事 高山智史
- 6 挨拶 櫻井委員長
- 7 協議事項

(1) 委員会代表質問について(農業委員会との意見交換を終えて)

櫻井委員長：前回の協議会の内容を別紙のとおりまとめた。合意できるものについて委員会代表質問を行いたい。(資料に基づいて説明。)

(音声欠落)

大野委員：農業委員会との意見交換会で須藤委員が、農地の集約化というテーマで農業委員の意見を聞いていたが、行政のかかわり方が明確ではないので、集約化に対する当局の考え方を聞いてみてはどうか。行政として今後、どのように関わっていくのか。4年前に全国で農地集約されているが、行政として今後どのように取り組むべきなのか、どのような課題があるのか聞いてみるのはいいことだと思う。

塚本委員：市民農園については、区画を小さくすることもさることながら、水だけではなく、道具を整備して借りられるようにすることが必要。管理人までいなくてもアドバイザーがいてもいいのではないか。また、大垣市などを見ても農業ビジョンの作り方も変わってきているので、その辺りも調べて提言することも大事である。環境、情勢は変わってきている。減反は今年からなくなったはずだ。

櫻井委員長：農具はそろっている。年会費でそろえている。倉庫を買って入れているようだ。農機はないが、鍬や鋤はある。

榊谷副委員長：3,000円の年会費で買い揃えてきたそうだ。

櫻井委員長：アドバイザーの設置を考えると、点々とするのか、一カ所だけなのか、農地を一カ所にまとめるのか、そうすると土地がないなあ等。

塚本委員：減反は廃止されたが、初の収穫期が2018年度ではなかったか。

(音声欠落)

須藤委員：それで何をやるのか決めないと。

櫻井委員長：市民農園が満杯ではないから、一区画を狭くしてはどうかという質問はしてもよいか。

大野委員：週末農園を小さくして借りやすくする。チャレンジしてはどうか。

櫻井委員長：この質問もいいですね。

榊谷副委員長：質問の組み立てとして、視察を踏まえ、ストーリー立てて質問してほしい。

櫻井委員長：農業ビジョンを新しく作るというイメージでよろしいか。今あるものを更新するのではなくて、丹羽会長が言っていたように、新しく作るということで農業ビジョンを改定すること。

大野委員：提案としては、総合計画や緑の基本計画は2か年で作るので、それに合わせて一緒に作っていく方がよい。時期がずれると難しくなる。

梅村委員：なぜ農業ビジョンは必要か。

櫻井委員長：農業に関する総合計画になる。背骨の部分になると思う。

梅村委員：岩倉も農業は活性化させるべきだし、農地を守らなければいけないという考えはあるということか。

櫻井委員長：市街化調整区域は今のまま残る。市街化区域は増やさないという状況である。5～10年ではここは農地だよというタグは外れないと思う。

大野委員：農業委員が言っていたが、都市近郊型農業としての今後のあり方は、20年前とは変わっているため、しっかりとしたものをつくって、5年、10年で見直して、いいかたちにしていく。

梅村委員：都市型近郊農業というのは岩倉も発展させるべきという考えのもとに質問するというのもいいが、農業は生きがい作りとしてやっていけばよいという考えもある。

櫻井委員長：農業ビジョンの中に市民農園として両方とも整備すれば。広い意味での農業ビジョンである。総合計画は、市民が週末農業をやりたい人の割合を増やすという項目がある。それを受けて、農業がどうあるべきかという農業ビジョンに落とし込んでくる。2番目も聞くということで。農地の集約。3番目、農地を集約化することに対する行政の役割としてどう考えているか、農地中間管理機構を岩倉市としてはどう考えているか。

榊谷副委員長：農業委員との話の中で、用水路、管路の老朽化の話もあった。

大野委員：維持管理課は言われたところは早急に対策しているが、情報が集約されておらず、計画的に予算化することができないため、維持管理課としても難しいのではないか。農業委員会でも把握していない。言われたところはやっている。

須藤委員：農業用排水路はどこが作ったものか。

櫻井委員長：市ではないか。

須藤委員：土地区画改良とともに作ったのか。

櫻井委員長：区画整理も絡んでくる。土地改良をやった時だと思う。

須藤委員：40～50年経っている。インフラ整備はすべきである。農事組合で取り

まとめ、計画的に整備していく必要がある。どこが最初に作ったのかという問題もある。

(複数名発言)

櫻井委員長：農業用排水路の老朽化に対する考えを質問する。

梅村委員：その都度やっているから、それでいいのか、計画的にやったほうがいいのか。コスト計算して計画的にやったほうがいいなら、まず計画を作ったらどうか。

大野委員：計画を立てても、予算がつかなければ意味がない。

(音声不明瞭)

櫻井委員長：農業用排水路の老朽化に対する考えを聞くこととする。公共施設再配置計画が周知されていないので、努力はされているが、知らないという市民がいるので、広報いわくらで特集記事を組んではどうか、というのは。

大野委員：回覧というのはこっちから言って。回覧のほうがみんな見るから。

櫻井委員長：広報記事プラス回覧で周知する考えはないか、と。

梅村委員：それはいいと思う。知ってもらわなければいけないから。

榊谷副委員長：計画が決まる前か、決まってからか。本当は、パブコメの前に周知が良いと思うが。

大野委員：パブコメ中なので意見をください、と。

櫻井委員長：作成中に周知されていないがということで質問する。広報の特集を組むプラス回覧を回す考えはないか、見解をお聞かせください、とする。あと、日ごろ市政に関わっていない人をEメンバーとして募ることについての質問をする。公共施設や建設について専門的な考えを有する方にEメンバーを募る。そして公共施設計画の進捗状況を定期的に発信する。それに対してメールで意見が返される。こういう制度が秦野市であったので、これを聞く。デマンドについてはどうするか。乗合率を高める方法をついに見つけられなかったが。

大野委員：志木市の取組を提案してはどうか。タクシーへの転換。

須藤委員：当局はすこやかタクシーを実施している。

大野委員：すこやかタクシーではなく、志木市のようなタクシー助成制度をやってみてはどうかという提案。

梅村委員：提案はいいと思うが、気になるのは、タクシー会社がきちんと配車してくれるか。現在は2台で不成立なので、3台配車してくれたら今より良くなる。

(発言する者あり。)

梅村委員：需要が増えればそのようなことも検討するというようなことも書いてあったが。変えて余計不便になることはないと思うが、いまひとつ確証が持てないので。

大野委員：美濃市のタクシー助成も、利用に合わせた判断をしてもらえるということなので大丈夫だと思う。

榊谷副委員長：地域公共交通会議では、タクシー会社2社の内、1社は配車が困難、1社はいいだろうとのことだった。

梅村委員：民間だから需要があれば増やしてもらえるかもしれないが、岩倉は専用のものが2台確保されているので、わからないが。考え方を聞くのはいいと思うが、委員会代表質問としてやるかどうか。

大野委員：志木市の説明をし、こうした取組も考えられるのではないかと提案する形でよいと思う。

梅村委員：一致すれば良いと思う。

榊谷副委員長：こういうのを見てきたけどどうなのかと聞く。課題3つというのは公共交通会議でも一致していた。1日40人目標に達しない、乗合率が悪い、予約不成立件数がある。予約しても乗れないからというあきらめ感が市民にある。事例を言うのはいい。

大野委員：こういった考え方があるのではないか。そうでないと、何しに行ったのということになってしまうのではないか。

塚本委員：タクシー会社は2社いたか。

榊谷副委員長：小牧のあおい交通も来ていた。

大野委員：タクシー助成するにしてもあと2、3年はデマンドを続けなければならぬ。タクシー会社と話し合いをしていないから。3年先のことを見据えてどうですかという話。

梅村委員：民間事業者が入っているので、やりすぎないように柔らかく。

櫻井委員長：こういう考えがあると柔らかく聞く。次、シティプロモーションについて、目的について問う。観光のプロモーションと定住のプロモーションと交流人口の拡大プロモーションは、方法が違うのでプロモーションの目的を聞く。人材については、提案になるが。

榊谷副委員長：人材について、私は一致しない。反対ではないが、クエスチョン。

櫻井委員長：では人材については、質問しない。講演会で聞いたことについて数点聞こうと思うが提案はあるか。紙のコースターとか市民記者制度とか。

梅村委員：お金がかからないやり方が良いと思う。

榊谷副委員長：自分の一般質問では、シティプロモーションのそもそも基本のところを質問したい。

櫻井委員長：どうぞ。違う切り口から。

大野委員：それでは委員会代表質問ではなくなってしまう。

榊谷副委員長：具体的な事例のシティプロモーションではなくて、卓球の岩倉オープンとか、岩倉市内に交流事業があるが、そういったところで一つひとつ丁

寧にやっっていくこともシティプロモーションの一つではないかという問題提起をしたい。

梅村委員：委員会として、シティプロモーションのやり方はこうだというものを決めて提案するのが本来、委員会代表質問だが、委員会代表質問がどういふものかまだきっちり決まっていない。

須藤委員：一人でも違う意見ならやれない。

櫻井委員長：委員会代表質問でシティプロモーションは質問しない。

梅村委員：6次産業化のことで、柏市の取組から質問してよいか。

大野委員：良い。

櫻井委員長：この場で、全員で合意できたものについて質問する。通告書と原稿を作る。

(2) その他

大野委員：ライスセンターの話はどうするか。

櫻井委員長：残り2年ある。

大野委員：ライスセンターの補助と言っていたが、新潟とか北海道とか大型のところは補助制度がある。何ヘクタールもあるところ。

櫻井委員長：農協に対しての補助金制度は無いという言い方だった。

塚本委員：条例か推進条例を作って、要項を作って、独自政策で出す。そこでビジョンがあればいい。

大野委員：農業ビジョンの中で、産直センターだけができた。

榊谷副委員長：6次産業化が出来た。夢吟香は大地町のお米。

櫻井委員長：先ほど言った、意見書について意見はないか。

榊谷副委員長：出してよいと思う。

櫻井委員長：2月の愛知県議会で同じ意見書を採択している。農業総合試験場において引き続き、米・麦・大豆の品種改良について予算措置をしてくれということ、県や農水省にお願いする意見書である。

(異議なし)

櫻井委員長：案文をつくって進めていく。

8 その他

特になし

次回：11月20日 農業委員会との意見交換会終了後（15時頃予定）